

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	関西地区FD連絡協議会
企画名称・テーマ	2011年度「授業の基本」ワークショップ 「授業の基本と授業づくり」
開催日時<会場>	2011年4月29日(金) <滋賀県立大学>
参加者所属	福祉教育開発センター

参加報告

1. 研修会の目的

比較的教務歴の浅い授業づくりに不安を持っている方、授業をつくる基本を学びたい方を対象に、授業づくりの基本を学ぶことを目的としている。

2. 研修の概要

関西FD連絡協議会に加盟している大学から24名の教員が参加した。講師は、滋賀県立大学教育実践支援室長の倉茂好匡氏。

本研修会の教授内容は、(1)授業計画、(2)授業展開で陥りやすい罠、(3)ワークショップ形式での教材研究及び模擬授業、の3つであった。

(1) 授業計画は、授業全体を「導入」、「展開」、「まとめ」の3つのパートに分けて行う。

とりわけ「導入」は、学生の興味・関心を如何にひきつけられるか。最初の5分が勝負である。授業の生命線とも言え、授業の「ヤマ」である「展開」に学生を乗せていけるかどうかの岐路になる。

その際の、基本的スキルは5点。①机間巡視、②発声、③発問、④視線、⑤板書、である。①机間巡視は、メモをしているかどうか、学生の理解度チェックもできる。一番後ろの机間から一番前の学生への発問により、学生の凝集性を高め、参加促進を図ることもできる。

②発声のポイントは、「ゆっくり・はっきり」、「間をとる(ノートに写す時間をとる)」、「抑揚をつける」の3つ。イメージとしては、3メートル先の床に叩きつけるようにつもりで発声する。

③発問は、アクティブ・ラーニングにつながり、学生主体型授業である。グループワークの発問は、議論しやすいテーマかどうか。テーマ設定が悪いと、発見・気づきを促進できず、まとめに落とし込めない。

④視線は、全体を見渡すために「Z」に動かす。教室のどこに立っても視線の動かし方は同じ。学生の表情を観察する。

⑤板書は、横書きの場合、左上から整理して書く。教室の大きさに合わせた文字サイ

ズにし、水平に書く。「書いたら動け」が鉄則。動かないと学生はノートにとれない。また、黒板が一杯になったら、消す。横書きの場合、左上から消し、書くこと。黒板の消し方は、横若しくは縦方向と、統一した消し方をする。色チョークの使い方。黄色チョークは学生は赤で書き、赤チョークは、青で書く。見やすい色チョークにオレンジ蛍光色がある。蛍光チョークは、黄、赤、青もあり、実際にこれまでのチョークを比較してみると、見映えが数段良い。

最後に授業準備で必要なこと、4点。①「何を話すか」を準備した「講義ノート」。②「どう話すか」「時間配分」を考えた「授業計画」。③「板書案」を作る。④発問項目をあげる。

(2) 授業展開で陥りやすい罠

90分の授業で「分かった」を増やすことを目的に授業は行う。厚労省もコミットしている学科の授業では、シラバス全てを教えようとすれば、時間が足りない。内容を精選し、出来ない項目は、宿題とする。全てを教えることが目的ではなく、教えた内容をどれだけ理解したか。「定着度」を高めることが目的。宿題は、採点し朱を入れて返す。学生が自習で分からないところを精選し、そこを授業で扱う。

「定着度」を高めるためには、「総論大好き症候群」の教え方でなく、「具体性のあるもの」を入れて興味をひきつける。到達目標を具体的に伝える。「発問」、学生に「具体例の報告」をさせたり、「練習問題」等を組み合わせる。留意すべきことは、「知識のたれ流し」ではなく、学生の気づきを促進する仕掛けを作ること。

(3) 教材研究

どうしても伝える必要のある「ヤマ」を定める。その「ヤマ」に向かって、授業のストーリーを作る。そのストーリーに「発問」を入れて構成する。6グループに分かれて、グループの代表者による模擬授業と講師による評価。

3. 本学のFD活動における検討課題

一昨年から2年間に渡り、社会福祉学部と福祉教育開発センターの実習担当教員のFD研究会は、社会福祉実習テキスト執筆者会議と密接に関係しつつ、成果物として『社会福祉実習』テキストを平成23年3月に発刊した。そこでは、実習教育で「何(What)」を教えるか。その教授内容のミニマムを、教員集団で共有することができた。今回の研修会を受講し、今後、それらの項目を「どのように(How)」教えるか。今後は、教授方法のミニマムを、社会福祉学部と福祉教育開発センターの実習担当教員間で教え合うFD活動に展開しなくては必要があると考えられる。